

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1475400758
法人名	株式会社 アイ・ディ・エス
事業所名	バナナ園 生田ヒルズ
訪問調査日	2018年9月26日
評価確定日	2019年1月18日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475400758	事業の開始年月日	平成17年8月1日
		指定年月日	平成29年8月1日
法人名	株式会社 アイ・ディ・エス		
事業所名	バナナ園 生田ヒルズ		
所在地	(〒214-0034) 川崎市多摩区三田5丁目9083		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	8名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果 市町村受理日	平成31年2月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット8名という強みを生かし、ご入居者様の1人1人に寄り添ったケアを心掛けています。また、ご家族様にも気軽に来て頂けるように、月に1度土又は日曜日を選んで、お楽しみ食事を開催し、ご入居者様とご家族様が時間を共有していただける機会を提供している。職員の教育面では、常勤は月に1回開催される常勤勉強会にて認知症の知識や・技術を学んでいる。また非常勤は、常勤から知識や技術を説明されるだけではなく、本部にて年3回非常勤勉強会を行うことにより、職員1人1人の技術の向上とチーム力を高める事を図っている。地域の方々向けに狂言教室を月1回開催しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成30年9月26日	評価機関 評価決定日	平成31年1月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- この事業所は株式会社アイ・ディ・エスの経営です。社会福祉法人ばなな会と共に川崎市を中心にグループホームを展開しており、グループ全体で10ヶ所のグループホームを運営しています。同法人は古民家を改修した造りから近代的な建物まで、様々な利用者のニーズに対応出来る事業所があることが、法人の特色でもあります。ここ「バナナ園生田ヒルズ」は小田急線「生田駅」から「鷺沼駅」もしくは「聖マリアンナ医科大学」行きのバスに乗り「春秋苑入口」停留所下車して、徒歩3分程の高台に位置しています。周辺環境は、緑の多い住宅街で、晴れた日には富士山やスカイツリー等も見渡す事が出来る眺望で、太陽が降り注ぐ恵まれた環境下にあります。建物は一般住宅を改良した、定員8名の家庭的な事業所です。
- 少数規模の共同生活を活かし、一人ひとりに合わせた見守り及び支援として、残された能力に合う役割(洗い物、洗濯物たたみ、掃除等)を担っていただくことで「その人なりにできることを継続する」ことを心がけています。管理者は、残存能力に合う役割をこなしていただくことで、ADLの維持につなげると共に、日常生活の中で生きがいを持って、穏やかに日々の生活を過ごせるような事業所にしたいと考えており、業務会議やケア会議の場でケアの方針に対する思いを伝えています。
- 事業所では、家族が気軽に来訪できるよう、1~2ヶ月毎の土曜もしくは日曜日にお楽しみ食事を開催しています。この取り組みは、利用者と家族が少しでも多く同じ時間を共有できるようにとの思いから開催していますが、事業所と家族とのコミュニケーションを深める場にもなっており、家族と事業所間も良好な関係が構築できています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	生田ヒルズ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【明るく・楽しく・自由に】というバナナ園グループの理念のもとに、利用者一人一人の人格を尊重し、地域の社会資源であるという事を全職員共有し実施している。	法人の社是「明るく・楽しく・自由に」を事務所に掲示しています。事業所では、1ユニット8名という少人数の利点を生かし、利用者1人ひとりに寄り添ったケアを心掛け、利用者が「明るく・楽しく・自由に」に家庭の延長として生活できるよう支援しています。また、地域の社会資源であるということ踏まえたうえで、積極的に地域との関りをもてるよう努めています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭礼等には積極的に参加する。また、地域の方に事業所・会社のニュースを告知することにより、事業所が地域の社会資源であると認識して頂けるよう精進している。地域の方向けに狂言教室を月1回開催。	自治会に加入し、地域の夏祭り等の行事に積極的に参加し、地域との交流を推進しています。散歩や買物等の日常的に行っている外出支援時にも、近隣の方と挨拶をし、日常的な交流に努めています。また、事業所で行われる狂言教室を月1回地域の方にも公開しています。体験学習では、中学生や専門学校生を受け入れています。法人で発行している「バナナニュース」を近隣の方に配布することで、法人や事業所の情報発信にも努めています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症のケアの方法や実態を周知している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回開催することにより、ご入居者様・ご家族様・地域包括・地域住民・区役所の高齢課職員から様々な意見・意向を頂き、サービス向上のために活かしている。	入居者、家族、地域包括支援センター、地域住民、区役所職員の参加を得て、2ヶ月に1回開催しています。事業所の現状や活動内容の報告を行い、参加者からの率直な意見等を伺っています。会議内容は議事録に纏め職員へ周知し、サービス向上につなげています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じた交流や、区役所の生活保護課職員との話し合いにより、事業所運営の実態や取組みを説明している。バナナニュース配布で、日頃の生活を伝える。	地域包括支援センターとは運営推進会議を通して、情報交換等を行い協力関係を構築しています。川崎市や多摩区の職員とは必要に応じて連絡を取り合い、生活保護受給者の受け入れを行っている関係で、生活保護課の職員とも連絡を取り合う等、協力関係を構築しています。また、法人で発行している「バナナニュース」を配布し、法人や事業所の取組みを伝えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が非身体拘束という意識を持ってケアに取り組み、リスクマネジメントという観点から夜間(玄関鍵の施錠)実施している。御入居者様の希望を伺い、外に出る時は職員が同行している。	全職員が、身体拘束は行わないという意識を持ってケアに取り組んでいます。「身体拘束は行わないケア」を実践するために、本部での研修や事業所内でも毎年研修を行い、身体拘束に関する正しい理解と知識を学んでいます。外出願望が強い方には、職員が必ず同行するようになっています。玄関の施錠については、家族の了解を得て、防犯上の観点から夜間帯のみ施錠しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご入居者様一人一人の情報を全職員が共有し、業務会議・ケア会議を通して職員間で意見交換する事で虐待のないケアに繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内・外の研修に参加することにより、全職員がご入居者様の権利擁護という視点をもってケアに取り組むことが出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が必ず立ち会うことにより、契約内容や事業の取り組みを伝え、不安や疑問点がなきよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月お楽しみ食事会と運営推進会議を開催することにより、ご家族様が事業所に来て頂ける環境作りに配慮している。また、ケアプラン作成時にはご家族様の要望を伺うことにより、ご家族様の意見を反映させやすいようにしている。暮らしぶりをお伝えしている。	利用者や家族からの意見や要望については、運営推進会議だけでなく、1~2ヵ月毎のお楽しみ食事会も開催し、家族が事業所に来所しやすい環境づくりを行っています。また、玄関に「ご意見箱」を設置し、面会時や電話連絡時に直接言いづらい方には、意見箱を通して要望を伺っています。ケアプラン作成時にも、家族の意見や要望を伺い、ケアプランに反映するようにしています。毎月送付する請求書類に、バナナニュースや利用者の近況をまとめた書類も同封しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議やケア会議を定期的開催することにより、職員の意見を反映させている。また、適時個人面談を行うなどしている。	職員の意見や提案は、日々実施する業務会議や毎月開催するケア会議で意見や提案を収集し、運営に反映しています。また、管理者は、職員と日頃から話合える関係を築いており適宜、個人面談を実施する等、コミュニケーション不足にならないように努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度をふまえて社内・外、研修会、資格取得の推進等を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内勉強会や、社外勉強会への参加を奨励することにより、その職員に必要なスキルを取得する機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホープだけでなく、老健や特養等同業多種の方々積極的に交流することにより、情報交換だけでなくサービスの向上・相互受け入れの確立等を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1での対応を心掛け、心理状態を把握し環境に慣れさせていただく。 常に傾聴の気持ちを大切にしている。 アセスメントをしっかりとさせていただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント・モニタリングをさせて頂き、家族の不安、要望などをじっくりと聞くようにしている。又 必要があれば電話での相談も常時、気軽に受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に、ご本人様だけでなくご家族様にお話を伺うことにより、その時の状況に適したアセスメント表を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であるという尊敬の念を持ち「共に生きる、共に寄り添う、共に成長する」の心で支援している。感謝の気持ちを持ち「ありがとう」声掛けも忘れない。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、「入居したからお任せします」というのではなく、あくまでもご家族様の代わりはないということを確認していただき、イベント等にはできるだけ参加していただけるよう告知している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所の近くで買い物や周辺を散歩することにより、地域との関係性を継続させる支援をしている。馴染みの多摩区の生田緑地、妙楽寺、二ヶ領近辺を利用している。	利用者の嘗ての馴染みの人との関係を維持できるよう、手紙や電話の取り次ぎを始め、知人の方が来所された際には、家族の意向を確認した後に取り次ぐようにしています。馴染みの場所については、家族の協力を得て、お彼岸やお墓参り、通い慣れたお店での買い物等に行かれています。事業所としては、地域との関係を継続するため、近くのスーパーに買い物に出かけ、散歩等を兼ねて、近くの諏訪神社や生田緑地、妙楽寺、二ヶ領近辺に出かけています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わり合いを見守り、生活の中で一緒に行える体操やボール投げ、洗濯物畳みを協力して実践している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設への訪問は自由であり、契約が終了したとしても出来る限りアフターフォローし、要請があればいつでも対応出来るよう心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様だけでなくご家族様にもお話を伺うことにより、ご本人様のその時にあったニーズを的確に把握するように努めている。御入居者様の夢プランの達成に努めている。	入居時に利用者と家族から話を伺い、希望、意向について把握するように努めています。法人では、利用者の思いを「夢プラン」と称して、利用者の思いを達成できるようにケアプランを立て、実現できるように支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでまず把握し、その後のケア、本人との会話、又 家族訪問時などで更なる情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活にて、本人の可能な力を見極め、スタッフとの共同作業や好まれる役割をお勧めしている。3ヶ月に1度のケアプラン見直しに反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議に職員それぞれの意見を持ち寄り、御入居者様自身を中心とした介護計画を作成している。御入居者様の暮らしに応じた臨機応変な見直しをしている。	入居時は、アセスメントで得られた情報を基に暫定の介護計画で経過を見ています。その後は、モニタリングを3ヵ月毎に実施し、介護計画は6ヵ月毎の更新を原則としています。毎月開催するケア会議で、職員が意見を持ち寄り、家族の意見も併せて検討して介護計画に反映しています。特変等があれば、随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアで見落としがないよう心掛け、情報共有の必要性から個別記録の記入を重要視し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望に応じ、外食・買い物・散歩等を援助し事業所の多機能性を活用・柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォーマルな社会資源だけではなく地域住民・商店街の特徴を把握することにより、ご本人が生活を楽しんでいただけるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との間に24時間の連携が行われている。隔週で行われている往診・毎年の健康診断・緊急時の対応も随時、と信頼関係を築けている。家族の対応が出来ない場合は通院介助を行っている。	入居時に、事業所の協力医療機関について説明していますが、利用者や家族の意向を尊重して主治医を決めていただくようにしています。事業所の協力医療機関の川崎高津クリニックは、月2回の往診と24時間のオンコール体制となっています。看護師は週1回、健康管理に来ています。皮膚、眼科等の専門医の受診は家族対応をお願いしていますが、家族の対応が難しい場合は、通院介助も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の健康チェックをしてもらっており、利用者の状態に応じて助言を頂き、医療連携へつなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院のソーシャルワーカー等と密に連絡を取り合い、ご入居者様の情報を共有することにより、入退院がスムーズに行われるよう努力している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に理解して頂いている。 状況に応じたターミナルへ向け、家族、医療関係、職員間でカンファレンスを持ち、意思統一しチームで支援している。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明し、事業所で出来ること出来ないことを理解していただいています。利用者の体調に変化があった場合は、家族、医療関係者、職員間でカンファレンスを開き、意思統一を図ったうえでチームとして支援するようにしています。		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡票を作成し、緊急時に備えている。また、職員には緊急時に備え、定期的に緊急連絡訓練を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練を行い、地域との連携がスムーズにいくよう心がけております。防災備蓄品の点検・補充を定期的に行っている。	年2回の防災訓練を実施しています。今年度は、消防署指導の下、4月に1回実施しています。地域の方々との協力体制づくりは、夜間想定訓練時に地域の方々の参加をお願いしています。また、防災設備点検時は、スプリンクラー、自動火災通報装置、非常ベル等のチェックを実施し、異常が無いことを確認しています。備蓄品については、3日分の非常食、衛生用品等の他、薬の予備も保管しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声掛け、対応を行っている。常にプライバシー確保を意識し、人前での排泄介助の声掛けは慎重にしている。守秘義務の徹底。	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保は重要性については、研修等で周知・徹底を図り、個人情報の取り扱いや守秘義務について、特に留意しています。また、日々の会話の言葉遣いや介助時の声掛けは丁寧かつ慎重な対応を心がけ、支援に努めています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定・自己選択を尊重し、ご本人様の思いを重視した支援を心がけている。飲み物や洋服も可能な限り、御入居者様に選んでいただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調と、ご年齢、活動量、好きな事を配慮して臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問理容して頂いている。毎朝顔を洗い、又はタオルで拭きブラシを持って頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人が食事の時間を楽しんでいただけるよう、お楽しみ食事を開催している。また、ご入居者様と職員が同じメニューのものを食べることで、同じ雰囲気を楽しむようにしている。	食材を業者から調達し、職員が調理をしており、手伝い可能なご利用者には下膳等をお願いしています。食事は利用者にとって楽しみの1つであり、他の利用者や職員との団欒の場であることから、利用者と職員と一緒に、同じ物を食べながら和気あいあいとした雰囲気の中で食事支援を行っています。食事の形態については、個々の利用者に応じて粗刻み食や普通食で、提供しています。また、食事会では、利用者の要望に応じた食事を月に一回提供しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分が摂りにくい方には、補助食品・ゼリー飲料などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で可能な方に対しては声かけを行い、それ以外の方は職員とともに実施している。また希望者には、訪問歯科をご紹介している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握することにより、トイレでの排泄の促しをする。排泄の失敗を減らしご本人様のストレスを減らしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適宜トイレへ誘導し、自立に向けた排泄支援を行っています。失敗した際は他の人に分からないよう、シャワー浴や清拭を行い、下着交換することで、ストレスや不快な思いを感じないように支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医や訪問看護師と医療連携を図り、ご利用者様の排便コントロールを実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思を尊重し、週に2回以上は入浴できるように支援している。 又 職員がその方に応じて交代する事で、声掛けの工夫をしている。御入居者様が気持ち良く、楽しめるよう配慮している。	週2回以上の入浴を基本としていますが、入浴日や時間については、利用者の希望を尊重した支援を心がけています。入浴は、清潔保持のみならず、体調変化の把握等の重要な役割もあるため、入浴拒否のある方は、職員を変えたり日にちをズラして対応する事もあります。菖蒲湯や柚子湯、入浴剤等で季節感も演出しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクリエーション、ラジオ体操など利用者様の体調を考慮しながら夜間、快眠が出来る様工夫している。 又 室温にも気を配り安眠できる様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の意見を元に薬情報を確認し、その度の変化に合わせ、主治医との連絡を密にとりながら、服薬の支援を職員全員で徹底管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の残存能力の合わせ、掃除や料理のお手伝いなど、生活の中でやりがいを持って頂きながら楽しくリハビリが出来る様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にウッドデッキでのんびり日向ぼっこを楽しむ。涼しい日は施設の周りを散歩に行かれる。 又 お買い物にも一緒に同行して頂き、リフレッシュして頂く様、支援している。 バナナ園生田の杜での外食会に参加している。年に一度コンサートへ出掛けている。	リビングからウッドデッキへ出て、周囲の風景を眺めながら、日向ぼっこ等も行ったり、事業所周辺を散歩することもあります。今年の夏は、猛暑であった為、外に出る機会は例年より少なかったですが、外出可能な天候の時、近くのスーパー等へ買い物に同行していただく等、外出を支援しています。また、バナナ園グループの2ヵ月毎の外食会や、年1回のグループ主催のコンサートにも出掛けています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理可能な利用者様がいらっしゃらないので、ご本人が必要又 はほしいと希望される品物についてはご家族に相談しながら購入するよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった時は、速やかに電話をかける様支援している。手紙をいつでも書けるように用意している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節を感じられる絵画やご入居者様の作品を展示し、居心地の良い空間作りに努めている。観葉植物・鉢植えを配し、御入居者様の五感を楽しませる工夫をしている。	共用空間は、季節感のあふれる絵画や、利用者の作品が多く飾られ、明るく居心地の良い空間作りがされています。リビングは東南角に位置し、大きなガラス戸が設けられ、採光も良く見晴らしも良い空間です。また、リビングからウッドデッキ経由で、庭の芝生へも降りられるようになっています。木々を始め、観葉植物等の鉢植えの植物も多く飾られています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも個人の気持ちを大切にすることにより、利用者同士と一緒に座れる長椅子やソファールを利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い出の品、使い慣れた家具、身の回り品などを持ってきていただき、ご入居者様が不安になる事なく、又 居心地良く生活できる様、工夫している。	居室は8部屋全て間取りが異なり、個性が出た造りになっています。居室には、エアコン・ベッド・電灯等が設備として提供され、入居時には、これまで使用していた使い慣れた家具、身の回り品、TV等を持ち込んでいただき、個々の生活拠点として工夫された空間の中で生活していただいています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人にあった介護支援計画を作成することにより、安心・安全な上で笑顔のある環境づくりを心掛けている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

バナナ園 生田ヒルズ

作成日

2018年9月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出支援	グループホーム内には要介護1から5までの方が生活しているので、マンツーマンでの対応が難しい場合もある。	短時間の散歩を増やす事から取り組む。2か月単位でローテーションを組む。	6か月
2	33	終末期に向けた体制の整備(グループホームまでの看取りの要望が高まっている)	医師、看護師、介護者ご家族様が共通の理解をもって対応につなげられる体制作り。(チーム支援)	「重度化に関する指針」マニュアルの理解、他事業所の実績を共有、ホスピスケア等成立条件を整える。	1年
3	29	地域の社会資源としての役割が果たせていない	地域住民の方に、事業所の理解を深める。お互いに協力し合える環境を作る。	運営推進会議や狂言教室を月1回開催し、地域住民の方に事業所に来て頂ける機会を作っていく。消火訓練へ参加していただく。	6か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。